

部局 FD 活動報告

①都市教養学部 人文・社会系／人文科学研究科		
取り組みの現状	学生による授業アンケート等	各教室によって学問的方法論、教育の技法、学生数などが異なるため、現在、学系/研究科の取り組みとして、学生による授業評価アンケートは実施していない。統一したアンケートをとっても、異なる教室で比較参照することが困難で、さほど効果的ではないためである(独自にFDアンケートを実施している教室もある)。その代わりに、各教室ごとに、学生からフィードバックを受ける仕組みを設けていたり、少人数体制における教員と学生の密接な対話を通じて、授業の質や教育の方法に関する意見交換をおこなうなど、授業改善に取り組んでいる。
	研究会・講演会・セミナー等	全学で実施するFDセミナーや講演会に参加して、授業改善に向けた理解を深めた。学系・研究科単位での研究会は開催されなかったので今後の課題としたい。
	その他	部局のFD委員を対象にアンケートを実施して、TAの活用方法および学生からのフィードバックを得る方法に関して各分野の取り組みについて意見を収集し、それらに対する問題意識を共有した。なお、アンケートは14分野のうち8分野から回答を得た。
今後の予定・展望	<p>今後はアンケートの結果などを参考に、部局としての取り組みについて意見を交換し、具体的な方策を検討していく必要がある。また、昨年度同様に講演会やセミナーの開催がなかったため、来年度は実施して、教員間の授業改善への意識向上を促したい。</p>	

②都市教養学部 法学系法律学コース・政治学コース		
取り組みの現状	学生による授業アンケート等	通年開講の専門教育科目(15科目)を対象として、学生による授業評価アンケートを実施した。年度末までに集計結果をまとめ、各担当教員にフィードバックし、来年度以降の教育活動の改善に役立てる。
	研究会・講演会・セミナー等	「法学系FD委員会」(「大学院社会科学研究所法学政治学専攻FD委員会」と合同。大学院(社会科学研究所法学政治学専攻)主任、FD委員、教務委員、基礎教育部会委員で構成)を組織している。
	その他	
今後の予定・展望	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに実施した授業評価アンケートの結果を、個々の教員のレベルにおいて、自らが担当する授業や教育環境の改善に反映させていく。 ・法学系のFD活動のあり方に関する法学系FD委員会における議論をより活発化させる。 ・各専門領域の教員間で、カリキュラムや講義のあり方について検討する機会を定期的に設け、法学系全体の教育効果の改善・充実につなげていきたい。 	

③社会科学研究科 法学政治学専攻

取 組 み の 現 状	学生による 授業アンケート等	各クラスの受講者が極めて少ないため、学生による授業評価はなじまない。授業の効果は、研究者養成を主眼とする大学院の場合、各分野における総合演習や修士論文・博士論文といった成果によって評価される。
	研究会・講演会・ セミナー等	<p>【全体の取り組み】 「大学院社会科学研究科法学政治学専攻FD委員会」（「法学系FD委員会」と合同。大学院（社会科学研究科法学政治学専攻）主任、FD委員、教務委員、基礎教育部会委員で構成）を組織している。</p> <p>【政治学分野】 ①毎月、教員・院生全員が参加する「政治学総合演習」を開催し、研究・教育水準の向上を図っている。 ②毎月、政治学分野の教員による「スタッフミーティング」を開催し、大学院の教育及び研究指導等に関する意見交換を行っている。 ③政治学分野に所属する全教員・院生で構成される「政治学FD会議」を開催している。政治学FD会議は、学期初の回（4月・10月）では、教員が当期の講義・演習の概要・趣旨等を説明し、意見交換を行う。これを踏まえ、学期末の回（9月・3月）では、学期初に掲げた授業目標の達成度等に関する情報交換を行うと共に、講義・演習に参加した院生との意見交換を行い、授業内容の改善に努めることとしている。</p> <p>【法律学分野】 ①教員・院生全員が参加する「法律学総合演習」を定期的で開催し、研究・教育水準の向上を図っている。 ②毎月、法律学分野の教員による「スタッフミーティング」を開催し、大学院の教育及び研究指導等に関する意見交換を行っている。</p>
	その他	
今後の予定・展望		2007年度から大学院FDの実施が求められていることを踏まえ、法律学・政治学総合演習等を中心とした自己点検・評価及びFD活動のさらなる充実に向けた検討を、大学院社会科学研究科法学政治学専攻FD委員会を中心に行っていく予定である。

④社会科学部 法曹養成専攻

<p>取り組みの現状</p>	<p>学生による 授業アンケート等</p>	<p>法科大学院の教育等の改善及び充実のためのアンケート調査を、各学期ごとにすべての法科大学院生を対象に実施している。このアンケート調査において、すべての授業科目について学生による授業評価を行うとともに、あわせて授業内容や方法、学習支援体制（オフィスアワーなど）、施設や設備等に対する要望等を尋ねている。授業評価のほか、授業に関する要望について当該科目の担当教員にフィードバックし、教育活動等の改善に役立てている。このアンケートで挙げられた要望等をFD会議で検討し、学習環境の改善に役立てている。</p>
	<p>研究会・講演会・ セミナー等</p>	<p>①FD会議等の実施 毎月1回、授業を担当する教員から構成されるFD会議を開催し、学生の学習状況や授業方法等についての情報の共有化を図るとともに、法科大学院における教育等についての意見交換を行っている。さらに、専門領域ごとにFDに関するミーティングを適宜開催している。 ②各種の団体が実施するセミナー等への参加 法科大学院教育、司法試験、第三者評価等に関して、法科大学院協会、大学評価・学位授与機構、日弁連等の各種団体が実施する検討会やセミナー等に参加している。</p>
	<p>その他</p>	<p>2004年度は、法科大学院設置申請に際して、文部科学省による教員審査を受けている。また、2004年11月、2005年7月に文部科学省による法科大学院設置年次計画履行状況実地調査を受け、2006年11月に、文部科学省による法科大学院設置計画履修状況面接調査を受けた。さらに、2008年度、2013年度には、法定化されている大学評価・学位授与機構による法科大学院認証評価（第三者評価）を受けた。なお、2007年度以降、法科大学院の各年度における自己点検・評価結果については、外部委員による評価を行い、年度ごとの自己評価書を公表している。</p>
<p>今後の予定・展望</p>	<p>2013年度の法科大学院認証評価の結果を踏まえ、法科大学院における教育・研究の質の向上を実現すべく、上記のような取り組みを継続する。 しかし、継続的に上記のような取り組みを実施し、法科大学院をより良いものとするために人的体制を整備する必要があることは、文部科学省による法科大学院設置計画履修状況の面接委員、法科大学院認証評価結果等において指摘されているところである。 したがって、今後も、優秀な教員を採用するための人事枠・制度の拡充、正規雇用職員の増員を中心とする事務体制の整備、これらを可能にする予算措置を至急講じなければ、適正な法科大学院の運営はきわめて困難である。今後も法科大学院認証評価（第三者評価）を受けるうえで、管理課長が週に一度（2時間程）しかない現在の事務体制の強化が必須である。</p>	

⑤都市教養学部 経営学系		
取り組みの現状	学生による授業アンケート等	前期・後期それぞれにおいて授業アンケートを実施した。前期は2014年6月6日(金)から19日(木)に新規開講科目3科目、後期は2014年11月6日(木)から19日(水)に後期開講の45科目を対象とした。回答はWEB形式で行い、回答率はそれぞれ、前期68.7%、後期25.5%であった。アンケートの結果は担当教員にフィードバックし、授業改善に役立っている。
	研究会・講演会・セミナー等	FDセミナー等について呼びかけるとともに、教員間で授業改善についての意見交換を行っている。
	その他	教員が相互に授業を見学し意見交換を行う期間を設定し、授業改善に役立っている。また、体系的な学習の促進を目指して学生に複数の「学習モデル」を提示し、学生が自らの興味に合わせて長期的な履修計画をたてやすくするような取り組みを行っている。
今後の予定・展望	教員が相互に授業を見学し意見交換を行う期間を設定し、授業改善に役立っている。また、体系的な学習の促進を目指して学生に複数の「学習モデル」を提示し、学生が自らの興味に合わせて長期的な履修計画をたてやすくするような取り組みを行っている。	

⑥社会科学部 経営学専攻		
取り組みの現状	学生による授業アンケート等	前期・後期各一度ずつ、開講全科目を対象に授業アンケートを実施した。前期は2014年7月7日(月)から26日(土)に20科目を対象にWEB形式で行い、回答率は49.1%、後期は2014年11月6日(木)から19日(水)に22科目を対象にWEB形式にて行い、回答率は45.0%であった。結果は担当教員にフィードバックし、授業改善に役立っている。
	研究会・講演会・セミナー等	本専攻の高度専門職業人養成プログラムにおいては、継続的に教員間で意見交換を行い、授業改善に努めている。また、FDセミナー等について積極的に呼び掛け、能動的な学習の導入を目指している。
	その他	今年度は後期の授業アンケート実施を例年より早めたため、より早いフィードバックが可能になった。
今後の予定・展望	引き続き、授業アンケートや教員間の意見交換をつうじて自発的・能動的な学習を促す授業を構築していく。	

⑦都市教養学部 理工学系		
取り組みの現状	学生による授業アンケート等	<p>(1) 理工学系6コースのすべての専門教育科目に対して、前期(7月)と後期(1~2月)に、「授業改善のためのアンケート(学生用)」調査を実施した。質問項目については、年変化を追跡できるように例年通りとした。自由記述式の設問は全学アンケートに準じている。また、授業担当者が設問できる問いを積極的に利用してもらおうよう、前期・後期とも「質問例集」を作成し、授業担当者に配布した。</p> <p>(2) 昨年度後期分の学生アンケートの集計結果を6月に、今年度前期分の学生アンケートの集計結果を11月に、それぞれ各教員へ返却した。学生の自由記述については、原文のまま各授業担当者に返却した(ただし、差別用語のみは除かれている)。アンケート結果のうち、数値化されている回答に関しては、理工FD委員会において今後の課題や授業改善の到達状況について議論した。</p> <p>(3) 授業担当者に対しては、「理工学系専門教育科目に関する授業改善アンケート」を、秋(11月14日締め切り)に実施し、それらの回答を集計して、教室環境改善などの整備を行った。今年度は、黒板ふきのクリーナーを点検し、一部新しいものに交換した。</p> <p>(4) 過去8年間の学生による授業改善アンケートを集計し、経年変化をグラフに示し、評価(5段階評価の4と5の割合)が年々上昇していることを確認した。この結果を含めたリーフレット「授業改善アンケート結果」を800部印刷し、来年度4月に、シラバスと一緒に学生に配布する。</p>
	研究会・講演会・セミナー等	毎月(8月と2月を除く)、理工学系FD委員会を開催し、各コースにおけるFD活動の報告と意見交換を行うと共に、授業アンケートの方法、成績評価基準、セミナー実施など理工学系FD委員会として検討すべき事項について議論を行った。
	その他	理工学系専門教育科目「授業のコツとポイント」という小冊子を作成し、来年度4月に理工学系全教員に配布する。この小冊子では、12名の教員の授業の工夫点が表示されており、末尾には理工学系教員の使用する教室の設備一覧や講義に必要な諸手続き一覧(鍵の借り出し方法や教室変更の方法など)をまとめた。
今後の予定・展望	学生による授業改善のためのアンケートを今後も実施し、今後のさらなる改善点を検討する。アンケート結果の経年変化などの情報については、これを学生に知ってもらうためのパンフレットを隔年で作成して配布する。また、教員向けにも授業改善に役立つ小冊子を隔年で作成して配布する。講義環境の改善についても、これまで通り継続して取り組んでいく。	

⑧理工学研究科		
取り組みの現状	学生による授業アンケート等	6専攻において、個々に大学院生に対するアンケート調査などを行い、理工学系FD委員会でその結果について議論した。大学院生の場合、授業を受講する時間より、研究室で研究活動に費やす時間が圧倒的に多いことを考慮して、大学院講義に対する評価に加え、研究に対する満足度、研究環境、研究・勉学へのサポート体制に対する要望収集も質問項目に含められている。FD委員会のみでは改善が困難な場合は、適宜、教務委員(大学院担当)、専攻長などとも相談し、改善を図った。
	研究会・講演会・セミナー等	理工学研究科では、各専攻においてカリキュラムや講義内容を検討する会合を持ち、授業改善と研究環境改善に関する施策を日々行っている。また、毎月、理工学研究科FD委員会を開催し、各専攻におけるFD活動の報告と意見交換を行うと共に、学生アンケートの方法など、理工学研究科として検討すべき事項について議論している。
	その他	特になし。
今後の予定・展望	大学院の授業改善については、それぞれの授業の特殊性、専門性も考慮して、各専攻ごとに今後も議論を深めていく。	

⑨都市環境学部		
取り組みの現状	学生による授業アンケート等	非常勤講師担当科目、実験・演習などの科目、受講者数が10名程度以下の科目これらを除く今年度開講科目について、前期、2014年7月11日(金)～7月22日(火)の期間にアンケートを行った。アンケートの実施・回収状況は、以下の通りである。学生アンケートは、対象科目数 65、返却科目数 58、履修登録者 2,931、回答者数 2,061だった。教員アンケートは、対象教員数(延べ人数) 101、返却教員数 73だった。後期については、2015年1月8日(木)～1月26日(月)の期間にアンケートを行った。結果の集計は、この報告書の提出時に出していない。
	研究会・講演会・セミナー等	
	その他	アンケートの教員へのフィードバックに関しては以下の通り。 1 個々の科目データについては、自由記述のフィルタリング後、主担当教員へ配信。 2 今回添付したデータ並びに自由記述については、都市環境FD委員会にて共有。
今後の予定・展望		学生による授業評価・教員による授業評価結果を次年度の授業に活用することによって、改善に取り組んでいく。なお、2015年度からクォーター制を導入するコースでは、アンケートを4回やる方向で検討している。

⑩都市環境科学研究科		
取り組みの現状	学生による授業アンケート等	非常勤講師担当科目、実験・演習などの科目、受講者数が10名程度以下の科目これらを除く今年度開講科目について、前期、2014年7月11日(金)～7月22日(火)の期間にアンケートを行った。アンケートの実施・回収状況は、以下の通りである。学生アンケートは、対象科目数 25、返却科目数 20、履修登録者 641、回答者数 364だった。教員アンケートは、対象教員数(延べ人数) 43、返却教員数 30だった。後期については、2015年1月8日(木)～1月26日(月)の期間にアンケートを行った。結果の集計は、この報告書の提出時に出していない。
	研究会・講演会・セミナー等	
	その他	アンケートの教員へのフィードバックに関しては以下の通り。 1 個々の科目データについては、自由記述のフィルタリング後、主担当教員へ配信。 2 今回添付したデータ並びに自由記述については、都市環境FD委員会にて共有。
今後の予定・展望		学生による授業評価・教員による授業評価結果を次年度の授業に活用することによって、改善に取り組んでいく。なお、2015年度からクォーター制を導入する学域では、アンケートを4回やる方向で検討している。

⑪システムデザイン学部		
取り組みの現状	学生による授業アンケート等	システムデザイン学部で開講された授業（演習、実験科目を除く）について、学生による授業改善アンケートを前期開講科目については2014年7月～8月、後期開講科目については2015年1月～2月にかけて実施した。アンケート結果を各科目毎にまとめ、各授業担当教員にフィードバックを行った。また、SD学部・研究科FDニュースとして配布、周知を行い、授業改善に努めた。本年度はアンケート項目文言や結果の経年変化が見られるようグラフのフォーマットについて見直しを行った。
	研究会・講演会・セミナー等	2014年10月30日開催の首都大学東京FDセミナー「能動的学習とその支援」について、テレビ会議システムを用いて日野キャンパス会場（1号館2階会議室）への中継を行った。
	その他	
今後の予定・展望		今後も引き続き学部・研究科合同のFD部会を定期的に行い、全学FD委員会との連携、FDの共通認識の形成、具体的取り組みの実施検討を行う。システムデザイン学部実施の授業改善アンケートについて、回収率が90%台を維持し教員や学生へのFD活動が浸透してきた一方、特に自由記述について整理・分析に要する経費が増大している。アンケート実施予算に合うよう実施科目の見直しが必要である。さらに、アンケート結果を授業改善へ繋げて行く方策を継続的に検討したい。

⑫システムデザイン研究科		
取り組みの現状	学生による授業アンケート等	システムデザイン研究科で開講された授業（演習、実験科目を除く）について、学生による授業改善アンケートを前期開講科目については2014年7月～8月、後期開講科目については2015年1月～2月にかけて実施した。アンケート結果を各科目毎にまとめ、各授業担当教員にフィードバックを行った。また、SD学部・研究科FDニュースとして配布、周知を行い、授業改善に努めた。本年度はアンケート項目文言や結果の経年変化が見られるようグラフのフォーマットについて見直しを行った。
	研究会・講演会・セミナー等	2014年10月30日開催の首都大学東京FDセミナー「能動的学習とその支援」について、テレビ会議システムを用いて日野キャンパス会場（1号館2階会議室）への中継を行った。
	その他	
今後の予定・展望		今後も引き続き学部・研究科合同のFD部会を定期的に行い、全学FD委員会との連携、FDの共通認識の形成、具体的取り組みの実施検討を行う。システムデザイン研究科実施の授業改善アンケートも学部と同様に回収率が90%台を維持し教員や学生へのFD活動が浸透している。一方、特に自由記述について整理・分析に要する経費が増大している。アンケート実施予算に合うよう実施科目の見直しが必要である。さらに、アンケート結果を授業改善へ繋げて行く方策を継続的に検討したい。

⑬健康福祉学部／人間健康科学研究科

取 り 組 み の 現 状	学生による 授業アンケート等	健康福祉学部で前期・後期に開講された全ての科目について、学生による授業改善アンケートを実施した。そして、前期・後期ともに、全回答結果に基づく学年別および講義・演習・実習別の計7種類の集計を別途行い、授業担当教員にフィードバックした。
	研究会・講演会・ セミナー等	FD委員会が行うFDセミナーを広く周知し、参加を促した。また、12月26日には、金沢大学大学教育開発・支援センターの杉森公一先生を講師として、「ルーブリックの基礎的理解とその体験 ルーブリックとは何か」と題した部局主催の講演・ワークショップを実施し、24名（教員16名、職員8名）の参加を得た。
	その他	健康福祉学部・人間健康科学研究科FD委員会部会を4回開催した。また、各学科・学域のニーズを踏まえた教育方法の改善に関して学科・学域ごとに内部の意見を求めて検討を行った結果、既にアクティブラーニングを活用している講義について、教員間で情報を共有しにくい現状があるため、その促通役をFD委員会が担っていくと良いのではないかとの意見が出された。
今後の予定・展望	全教員におけるFDに関する共通認識の形成およびボトムアップ型の改善への取り組みを中心にFD活動を進める。また、個々の教員レベルにおける授業改善の取り組みの情報を共有する仕組みの実現について検討する。	

FD 委員会活動報告

平成 26 年度 FD 委員会活動記録

平成 26 年度 FD 委員会委員

平成 26 年度 F D 委員会活動記録

【研修・セミナー】

平成 26 年 4 月 2 日（水） 新任教員研修

- ・首都大学東京の紹介 山下 英明（大学教育センター長・F D 委員会委員長）
- ・本学の教育プログラム 高野 一良（教務委員長）
- ・本学の学生支援について 繁田 雅弘（副学長・学生サポートセンター副センター長）
- ・本学の事務組織及び運営体制の概要 松木 知子（大学教育推進担当課長）
- ・講演「授業デザイン～マクロな目標からミクロな手法へ～」 大森 不二雄（大学教育センター 教授）
- ・ワークショップ

平成 26 年 6 月 20 日（金） F D ・ S D セミナー

テーマ「教育改革の推進」

- ・基調講演「大学改革の戦略と実践 – AIU、ICU の経験から –」
鈴木 典比古（国際教養大学 理事長・学長）
- ・調査報告「学生の成長とこれからの教学改革のあり方
–ベネッセ調査データに見る、教学改革の実態と大学生の成長実感–」
山下 仁司（ベネッセ教育総合研究所高等教育研究室 主席研究員）
- ・教職員による課題研究発表「首都大生の“考える力”を鍛える仕組みづくり～課題と改善策～」

平成 26 年 10 月 30 日（木） F D セミナー

テーマ「能動的学習とその支援」

- ・趣旨説明「首都大学東京の教育改革について」
山下 英明（大学教育センター長・F D 委員会委員長）
- ・基調講演 I 「学習科学の知見を活かした学びの支援～国内外の事例をもとに～」
美馬 のゆり（公立はこだて未来大学 システム情報科学部 教授）」
- ・基調講演 II 「アクティブ・ラーニング事始め
～学生をアクティブ・ラーナーに育てるハイブリッド型授業～」
三浦 真琴（関西大学 教育推進部 教授）
- ・学内事例報告「分子応用化学のカリキュラム改革
～対話型、問題発見・解決型講義の導入と自己評価システムの試行～」
川上 浩良（都市環境学部分子応用化学コース 教授）
- ・ディスカッション

【授業改善アンケート】

平成 26 年 7 月 9 日（水）～7 月 22 日（火） 前期授業改善アンケート実施

（基礎ゼミナール、情報リテラシー実践 I、実践英語 Ia、理系共通基礎科目、キャリア教育科目、教養科目群・基盤科目群）

平成 26 年 1 月 8 日（木）～1 月 26 日（月） 後期授業改善アンケート実施

（情報リテラシー実践 II、実践英語 IIb、未修言語科目、理系共通基礎科目、キャリア教育科目、教養科目群・基盤科目群）

【平成26年度FD委員会 議事一覧】 各回の議事から、主なものを掲載

	審議事項	報告事項
第1回 (4月24日)	<ul style="list-style-type: none"> 前期授業改善アンケートの実施について 	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度新任教員研修の開催報告 平成25年度決算及び平成26年度予算 教育改善に関する意見・提案の募集について 各部局FD委員会報告
第2回 (6月26日)	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度前期授業改善アンケートの質問項目について 	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度FD・SDセミナーの開催報告 平成26年度FDセミナーの企画について 教育改善に関する意見・提案について 冊子「能動的な学習を促すために」の配布 各部局FD委員会報告
第3回 (7月24日)	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度FDセミナーの企画について 	<ul style="list-style-type: none"> 本学の情報教育環境及びeラーニングシステムの紹介について 各部局FD委員会報告
第4回 (9月25日)	<ul style="list-style-type: none"> 前期授業改善アンケートの自由記述フィルタリングについて 後期授業改善アンケートの実施について 	<ul style="list-style-type: none"> 前期授業改善アンケートの集計結果報告 平成26年度FDセミナーについて ブレインストーミング(予告) 各部局FD委員会報告
第5回 (10月23日)	<ul style="list-style-type: none"> 「キャンパス2015」掲載の原稿について 別冊FDレポート(リーフレット)の企画について FDレポート「クロスロード」14号の発行について 	<ul style="list-style-type: none"> ブレインストーミング 各部局FD委員会報告
第6回 (11月27日)	<ul style="list-style-type: none"> 後期授業改善アンケートの質問項目について 	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度FDセミナー開催報告 ブレインストーミング 各部局FD委員会報告
第7回 (12月25日)	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度年間活動テーマ及び年間活動計画案について 	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度各部局FD活動報告書の作成について 後期授業改善アンケートの実施について 大学教育学会課題研究集会の参加報告 ブレインストーミング 各部局FD委員会報告
第8回 (1月29日)	<ul style="list-style-type: none"> 教育改善点調査について 平成26年度新任教員研修について 平成26年FD・SDセミナーについて 教員アンケートの共有について 	<ul style="list-style-type: none"> 「クロスロード」第14号の編集状況報告 各部局FD活動状況の調査報告 リーフレット「Study+」の制作状況について 後期授業改善アンケートの実施状況について 各部局FD委員会報告
第9回 (3月26日)	<ul style="list-style-type: none"> 次年度委員会への申し送り事項 後期授業改善アンケートの自由記述フィルタリング 	<ul style="list-style-type: none"> 「クロスロード」第14号の発行について 後期授業改善アンケートの集計結果報告 各部局FD委員会報告

平成 26 年度 F D 委員会委員

	所 属	氏 名
委員長	大学教育センター長	山下 英明
委員	都市教養学部人文・社会系	荒木 典子
〃	人文科学研究科	室田 信一
〃	都市教養学部法学系	天野 晋介
〃	社会科学研究所	〃
〃	都市教養学部経営学系	荒戸 寛樹
〃	都市教養学部理工学系	海老原 充
〃	理工学研究科	林 文男
〃	都市環境学部	梅山 元彦
〃	都市環境科学研究科	〃
〃	システムデザイン学部	櫻井 毅司
〃	システムデザイン研究科	開沼 泰隆 (4～9月) 西内 信之 (10～3月)
〃	健康福祉学部	猫田 泰敏
〃	人間健康科学研究科	〃
〃	大学教育センター	大森不二雄
〃	教務委員会委員長	高野 一良
〃	基礎教育部会部会長	横田 佳之

オブザーバー	大学教育センター	渡辺 雄貴
--------	----------	-------

事務局	首都大学東京管理部教務課	大学教育推進担当課長	松木 知子
〃	〃	教育支援・評価係長	安部 祐子
〃	〃	教育支援・評価係	佐藤麻衣子
〃	〃	教育支援・評価係	谷中佐江理